(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2008-291469
(P2008-291469A)
(43)公開日　平成20年12月4日(2008.12.4)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
E04F 13/07	(2006.01)	E04F	13/00	E	2E110
E04F 13/08	(2006.01)	E04F	13/08	H	
E04F 13/21	(2006.01)	E04F	13/08	K	
E04F 19/06	(2006.01)	E04F	13/08	101B	
		E04F	19/06	E	

審査請求 未請求　請求項の数 5　ＯＬ　（全 11 頁）

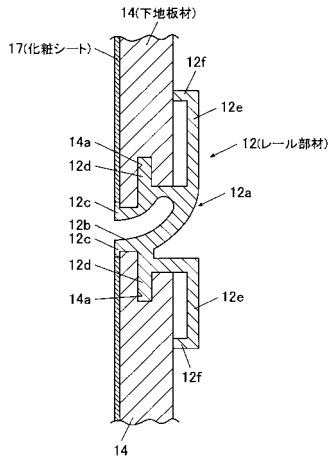
(21)出願番号　特願2007-136679 (P2007-136679)
(22)出願日　平成19年5月23日 (2007.5.23)

(71)出願人　307042385
ミサワホーム株式会社
東京都新宿区西新宿二丁目４番１号
(74)代理人　100090033
弁理士　荒船　博司
(72)発明者　北川　順
東京都杉並区高井戸東２丁目４番５号　ミサワホーム株式会社内

Ｆターム(参考)　2E110 AA23 AA42 AA43 AA48 AA57 AA60 AB04 AB23 BA30 BB03 CA04 CA09 CC02 CC04 DA16 DA17 DC06 DC12 GA32W GA33Y GB17W GB45W GB62Y

(54)【発明の名称】化粧壁の形成方法およびレール部材

(57)【要約】
【課題】外観性に優れ、部屋の壁面に対して化粧壁を広く形成することが可能な化粧壁の形成方法およびレール部材を提供することを目的とする。
【解決手段】部屋１の壁面２に、レール部材１２（１３）を上下に所定の間隔をあけて複数配置するとともに、これら上下に隣り合うレール部材１２（１３）のそれぞれの間に、複数の下地板材１４を左右に隣接配置して化粧壁下地１１を形成し、この化粧壁下地１１の表面全面に、この化粧壁下地１１の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シート１７を貼り付け、前記複数のレール部材１２（１３）に沿って化粧シート１７を切断してから剥がす化粧壁１０の形成方法。また、化粧壁１０を形成する際に使用されるレール部材１２（１３）。これにより、化粧シートによって左右に隣接する下地板材どうしの継ぎ目を容易かつ確実に隠すことができる。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
部屋の壁面に、この壁面の幅方向に沿って長尺に形成され、棚板を受けるためのレール部材を、上下に所定の間隔をあけて複数配置するとともに、これら上下に隣り合うレール部材のそれぞれの間に、複数の下地板材を左右に隣接して配置することによって、前記壁面を覆う化粧壁下地を形成し、
この化粧壁下地の表面全面に、この化粧壁下地の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シートを貼り付け、その後、前記複数のレール部材に沿って化粧シートを切断するとともに、これら複数のレール部材の表面に貼り付けられた化粧シートのみを剥がすことを特徴とする化粧壁の形成方法。
【請求項２】
請求項１に記載の化粧壁の形成方法において、
予め前記部屋の壁面の下部に幅木を取り付けておき、この幅木の上端部に前記化粧壁下地の下端部が位置するようにして、前記化粧壁下地を形成していくことを特徴とする化粧壁の形成方法。
【請求項３】
請求項１または２に記載の化粧壁の形成方法において、
天井の施工前に前記化粧壁下地を形成しておき、この化粧壁下地の上端部よりも下方に位置するようにして天井材を設置することを特徴とする化粧壁の形成方法。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか一項に記載の化粧壁の形成方法において、
前記複数の下地板材を、止着材によって前記壁面に固定し、その後、前記化粧シートを前記化粧壁下地の表面全面に貼り付けることを特徴とする化粧壁の形成方法。
【請求項５】
請求項１～４のいずれか一項に記載の化粧壁の形成方法で使用されるレール部材は、このレール部材の厚さ寸法が、前記壁面に形成される開口部に取り付けられ、その奥行き方向両端が前記壁面よりも突出する開口枠の突出寸法よりも薄くなるように形成されていることを特徴とするレール部材。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、部屋の壁面に化粧壁を形成する化粧壁の形成方法および化粧壁を形成する際に使用されるレール部材に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、壁に横方向にパネル連結用のレール部材を複数本取り付けて該レール部材間にパネルを取り付けた壁構造についての技術が知られており、このような壁構造においては、前記レール部材に形成された係止溝部に棚板の係止手段を係止することによって、前記レール部材の前方に棚板を設けることが行われている（例えば、特許文献１参照）。
【特許文献１】特開２００５－１３９８３０号公報
【発明の開示】
【発明が解決しようとする課題】
【０００３】
ところで、特許文献１に記載の壁構造で使用されるパネルは、例えば、幅６６６ｍｍ、高さ３３３ｍｍといった具合に定められた所定の大きさに形成されたものが使用されている。また、パネルの具体的なものとしては、タイル、木彫化粧パネル、コルクボード、ガラス、アクリル、セラミック板等のように、例えば予め化粧が施されたものや、元々外観に優れているために化粧を施す必要がないもの等が使用されている。
ところが、このようなパネルを、部屋の壁一面に広く取り付けたいという要望があった場合に、必ず複数のパネルどうしを左右に隣接させなければならないので、隣接するパネ

ルどうしの継ぎ目が目立ってしまうという問題があった。

【０００４】

本発明の課題は、外観性に優れ、部屋の壁面に対して化粧壁を広く形成することが可能な化粧壁の形成方法およびレール部材を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

請求項１に記載の発明は、化粧壁１０の形成方法であり、例えば図１～図４に示すように、部屋１の壁面２に、この壁面２の幅方向に沿って長尺に形成され、棚板１８を受けるためのレール部材１２（１３）を、上下に所定の間隔をあけて複数配置するとともに、これら上下に隣り合うレール部材１２（１３）のそれぞれの間に、複数の下地板材１４を左右に隣接して配置することによって、前記壁面２を覆う化粧壁下地１１を形成し、

この化粧壁下地１１の表面全面に、この化粧壁下地１１の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シート１７を貼り付け、その後、前記複数のレール部材１２（１３）に沿って化粧シート１７を切断するとともに、これら複数のレール部材１２（１３）の表面に貼り付けられた化粧シート１７のみを剥がすことを特徴とする。

【０００６】

請求項１に記載の発明によれば、前記部屋１の壁面２に形成した化粧壁下地１１の表面全面に、この化粧壁下地１１の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シート１７を貼り付け、その後、前記複数のレール部材１２（１３）に沿って化粧シート１７を切断するとともに、これら複数のレール部材１２（１３）の表面に貼り付けられた化粧シート１７のみを剥がすことから、この化粧シート１７によって前記左右に隣接する下地板材１４どうしの継ぎ目を容易かつ確実に隠すことができるので、外観性に優れる。そして、前記上下に隣り合うレール部材１２（１３）のそれぞれの間に、複数の下地板材１４を左右に隣接して配置することによって形成された化粧壁下地１１の表面全面に、前記化粧シート１７を貼り付けるので、前記左右に隣接配置した複数の下地板材１４に沿って長尺な化粧壁１０を形成することができる。したがって、部屋１の壁面２に対して化粧壁１０を広く形成することが可能となる。

【０００７】

請求項２に記載の発明は、例えば図３に示すように、請求項１に記載の化粧壁１０の形成方法において、

予め前記部屋１の壁面２の下部に幅木３を取り付けておき、この幅木３の上端部に前記化粧壁下地１１の下端部が位置するようにして、前記化粧壁下地１１を形成していくことを特徴とする。

【０００８】

請求項２に記載の発明によれば、予め前記部屋１の壁面２の下部に幅木３を取り付けておき、この幅木３の上端部に前記化粧壁下地１１の下端部が位置するようにして、前記化粧壁下地１１を形成していくので、前記幅木３の上端部を、前記化粧壁下地１１を壁面２に形成する際の基準位置として利用できる。これによって、前記化粧壁下地１１の壁面２に対する取付位置の特定が容易となるので、施工性の向上を図ることができる。

【０００９】

請求項３に記載の発明は、例えば図３に示すように、請求項１または２に記載の化粧壁１０の形成方法において、

天井６の施工前に前記化粧壁下地１１を形成しておき、この化粧壁下地１１の上端部よりも下方に位置するようにして天井材６ａを設置することを特徴とする。

【００１０】

請求項３に記載の発明によれば、天井６の施工前に前記化粧壁下地１１を形成しておき、この化粧壁下地１１の上端部よりも下方に位置するようにして天井材６ａを設置するので、例えば前記化粧壁下地１１の最上段に位置する下地板材１４の上端部を、天井６の高さに合うように切断したり等の手間を省略することができ、より施工性の向上を図ることができる。

【００１１】
請求項４に記載の発明は、例えば図３および図４に示すように、請求項１～３のいずれか一項に記載の化粧壁１０の形成方法において、
前記複数の下地板材１４を、止着材２１によって前記壁面２に固定し、その後、前記化粧シート１７を前記化粧壁下地１１の表面全面に貼り付けることを特徴とする。
【００１２】
請求項４に記載の発明によれば、前記複数の下地板材１４を、止着材２１によって前記壁面２に固定し、その後、前記化粧シート１７を前記化粧壁下地１１の表面全面に貼り付けるので、前記止着材２１によって前記複数の下地板材１４を、前記壁面２に強固に固定することができ、さらに前記化粧シート１７によって、前記下地板材１４の表面に露出する止着材２１の頭部を容易かつ確実に隠すことができ、より外観性に優れる。
しかも、このように前記複数の下地板材１４を、止着材２１によって前記壁面２に固定するので、止着材２１で前記複数の下地板材１４を固定しなかった場合とは異なり、例えば地震等で左右に隣接する下地板材１４間に隙間が生じてしまい、これに応じて前記化粧壁下地１１の表面に貼り付けられた化粧シート１７に亀裂が入ってしまうような事態を確実に防ぐことができる。
【００１３】
請求項５に記載の発明は、例えば図３～図５に示すように、請求項１～４のいずれか一項に記載の化粧壁１０の形成方法で使用されるレール部材１２（１３）は、このレール部材１２（１３）の厚さ寸法が、前記壁面２に形成される開口部４に取り付けられ、その奥行き方向両端５ａが前記壁面２よりも突出する開口枠５の突出寸法よりも薄くなるように形成されていることを特徴とする。
【００１４】
請求項５に記載の発明によれば、前記レール部材１２（１３）の厚さ寸法が、前記開口枠５の壁面２からの突出寸法よりも薄いので、前記壁面２からの突出寸法をより小さくした化粧壁１０を形成することができ、さらに外観性に優れる。
【発明の効果】
【００１５】
本発明によれば、部屋の壁面に形成した化粧壁下地の表面全面に、この化粧壁下地の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シートを貼り付け、その後、複数のレール部材に沿って化粧シートを切断するとともに、これら複数のレール部材の表面に貼り付けられた化粧シートのみを剥がすことから、この化粧シートによって左右に隣接する下地板材どうしの継ぎ目を容易かつ確実に隠すことができるので、外観性に優れる。
そして、上下に隣り合うレール部材のそれぞれの間に、複数の下地板材を左右に隣接して配置することによって形成された化粧壁下地の表面全面に化粧シートを貼り付けるので、左右に隣接配置した複数の下地板材に沿って長尺な化粧壁を形成することができる。したがって、部屋の壁面に対して化粧壁を広く形成することが可能となる。
【発明を実施するための最良の形態】
【００１６】
以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。
【００１７】
本実施の形態における化粧壁１０は、図１～図４に示すように、部屋１の壁面２に、この壁面２の幅方向に沿って長尺に形成され、棚板１８を受けるためのレール部材１２（１３）を、上下に所定の間隔をあけて複数配置するとともに、これら上下に隣り合うレール部材１２（１３）のそれぞれの間に、複数の下地板材１４を左右に隣接して配置することによって、前記壁面２を覆う化粧壁下地１１を形成し、この化粧壁下地１１の表面全面に、この化粧壁下地１１の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シート１７を貼り付け、その後、前記複数のレール部材１２（１３）に沿って化粧シート１７を切断するとともに、これら複数のレール部材１２（１３）の表面に貼り付けられた化粧シート１７のみを剥がすことによって形成されている。

【００１８】
ここで、本実施の形態においては、壁や床、屋根といった建物の構成要素を予め工場にてパネル化しておき、施工現場でこれらのパネルを組み立てて構築するパネル工法で建物が構築されており、前記化粧壁下地１１が設けられる部屋１の壁もパネルによって形成されている。なお、従来の軸組工法や壁式工法の木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造等の建物にも適用することができる。
【００１９】
なお、前記パネルとは、縦横の框材が矩形状に組み立てられるとともに、矩形枠の内部に補助桟材が縦横に組み付けられて枠体が構成され、この枠体の両面もしくは片面に、面材が貼設されたものであり、図５に示すように、内部中空な構造となっている。
【００２０】
前記化粧壁下地１１は、図４に示すように、前記複数のレール部材１２（１３）および複数の下地板材１４の他にも、前記化粧壁下地１１の左右側端を見切るための見切材１６と、前記複数の下地板材１４の裏面と壁面２との間に設けられる補助下地材１５とを備えている。
【００２１】
前記レール部材１２（１３）は、前記部屋１の壁面２の幅方向に沿って長尺に形成され、棚板１８を受けるためのものであり、上下に所定の間隔をあけて複数配置されている。また、これら複数のレール部材１２（１３）のうち、前記化粧壁下地１１の最下段に設けられるレール部材１３は、他のレール部材１２とは異なる形状になっている。
【００２２】
すなわち、最下段以外のレール部材１２は、図２に示すように、前記部屋１の幅方向に沿って長尺に形成されたレール本体１２ａと、このレール本体１２ａの表面に形成され、前記棚板１８に設けられる係合部２０ｄ（後述する）と係合する被係合部１２ｂと、前記レール本体１２ａの表面に設けられ、前記被係合部１２ｂを介して上下方向にそれぞれ突出する突片１２ｃと、前記レール本体１２ａの側面視中央付近において上下に突出して形成され、前記下地板材１４の上下端部に形成される溝部１４ａ（後述する）に差し込まれる差込部１２ｄと、前記レール本体１２ａの裏面に設けられ、上下方向にそれぞれ延出して前記壁面２に当接する当接部１２ｅと、この当接部１２ｅの延出方向端部から前記下地板材１４の裏面まで突出して、前記下地板材１４を前記壁面２から所定間隔離間させるように支持する支持部１２ｆとを備えている。
【００２３】
なお、前記被係合部１２ｂは、前記レール本体１２ａの表面に開口する溝であり、側断面視において前記レール本体１２ａの表面から、このレール本体１２ａの中央にかけて、上向きに湾曲するようにして形成されている。
【００２４】
一方、上述した異なる形状のレール部材１３は、図３および図４に示すように、最下段に設けられるものなので、棚板１８を設ける必要が無いため、前記レール部材１２のような被係合部１２ｂを備えていない。
また、このレール部材１３は、レール本体１３ａの下面に、幅木３の上端部に当接する幅木当接部１３ｂを備えている。その他にも、このレール部材１３は、前記レール部材１２と同様に、突片１３ｃ、差込部１３ｄ、当接部１３ｅおよび支持部１３ｆを備えているが、最下段に設けられるものであるため、上側のみ設けられた状態となっている。
【００２５】
さらに、前記レール部材１２（１３）は、図３～図５に示すように、このレール部材１２（１３）の厚さ寸法が、前記壁面２に形成される開口部４に取り付けられ、その奥行き方向両端５ａが前記壁面２よりも突出する開口枠５の突出寸法よりも薄くなるように形成されている。つまり、このように、前記レール部材１２（１３）の厚さ寸法を薄く形成することによって、前記壁面２からの突出寸法をより小さくした化粧壁１０を形成することができ、外観性に優れる。

【００２６】
そして、前記下地板材１４は、前記上下に隣り合うレール部材１２（１３）のそれぞれの間に、左右に隣接して配置されている。なお、これら下地板材１４を何枚左右に隣接させて配置するかは、部屋１の壁面２の幅寸法によって適宜変更可能であり、所定の長さに切断加工して使用することも可能である。
【００２７】
また、これら複数の下地板材１４の上端部および下端部には、前記レール部材１２（１３）の差込部１２ｄ（１３ｄ）が差し込まれる溝部１４ａが形成されている。なお、この溝部１４ａは、前記化粧壁下地１１の最上段に位置する下地板材１４の上端部が、後述する天井材６ａよりも上方に配置されることとなるので、該下地板材１４の上端部には形成せずともよい。
【００２８】
本実施の形態の下地板材１４としては、合板が用いられているが、これに限るものではなく、例えば樹種を変更したり、木片等を合成樹脂で固めたパーティクルボード等を使用してもよく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。
なお、このように本実施の形態の下地板材１４として合板等の木材を用いると、木材であるがゆえに長ければ長いほど反りが生じてしまうが、本実施の形態では反りが生じない程度に短めに形成しておくことができるので好ましい。
【００２９】
さらに、前記複数の下地板材１４の裏面と壁面２との間には、図３および図４に示すように、下地板材１４の裏面の上端部近傍および下端部近傍に、前記補助下地材１５が設けられている。また、この補助下地材１５は、前記下地板材１４の長さ方向に沿って長尺に形成されるとともに、前記レール部材１２（１３）の支持部１２ｆ（１３ｆ）の突出寸法と同様の厚さ寸法を有している。
【００３０】
そして、このように前記補助下地材１５が前記下地板材１４の裏面において長さ方向に沿うように設けられているので、前記複数の下地板材１４を安定的に壁面２に固定できるようになっている。しかも、前記レール部材１２（１３）の支持部１２ｆ（１３ｆ）の突出寸法と同様の厚さ寸法を有しているので、前記複数の下地板材１４の出幅を抑え、前記壁面２からの突出寸法をより小さくした化粧壁１０を形成することができ、外観性に優れる。
【００３１】
一方、本実施の形態の化粧シート１７は、上述したように前記化粧壁下地１１の表面全面を被覆可能な大きさを有している。つまり、前記複数のレール部材１２（１３）と、これらレール部材１２（１３）間に配置される複数の下地部材との表面に一気に貼り付けられる大きさを有している。
【００３２】
この化粧シート１７としては、例えば壁紙クロスであり、ロール状に巻かれたものが使用されている。なお、本実施の形態の化粧シート１７の素材としては、例えばビニールでもよく、珪藻土等の天然素材を使用してもよく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で適宜変更可能である。
【００３３】
なお、本実施の形態の化粧シート１７は、無地でもよく模様が描かれたものでもよい。例えば、図示はしないが、前記化粧壁下地１１の大きさに近い大きさで、かつ連続性を有するイラスト・絵画等をプリントした化粧シート１７を用いると、棚板１８を設けて物品を収納できる化粧壁１０を形成すると同時に、壁面２にイラスト・絵画等を表出させることができるので、利便性とデザイン性とを両立できて好ましい。
【００３４】
そして、前記棚板１８は、図４に示すように、物品等を載置するための棚板本体１９と、この棚板本体１９を支持し、前記レール部材１２の被係合部１２ｂに係合する係合部２

０ｄを備えた棚板支持部材２０とからなる。

【００３５】

この棚板支持部材２０は、前記化粧壁下地１１に化粧シート１７が貼り付けられて形成された前記化粧壁１０の表面に当接する当接部２０ａと、この当接部２０ａの下部から、斜め上方に延出して前記棚板本体１９を下方から支持する支持部２０ｂと、前記当接部２０ａの上端部から前方に延出して前記棚板本体１９の端部を上方から押さえ込む押さえ部２０ｃと、この押さえ部２０ｃとは反対方向に延出し、斜め上方に湾曲するようにして突出する前記係合部２０ｄとを備えている。

【００３６】

次に、前記化粧壁１０を形成する方法について詳細に説明する。

【００３７】

まずは、部屋１の壁面２の幅寸法を測定し、測定した幅寸法に応じて前記複数の下地板材１４の使用枚数や寸法調整を行う。また、前記複数のレール部材１２（１３）の長さ寸法も、前記壁面２の幅寸法に応じて寸法調整を行っておく。

【００３８】

さらに、予め前記複数の下地板材１４の裏面の上端部近傍および下端部近傍には、この下地板材１４の長さ方向に沿って前記補助下地材１５を取り付けておくようにする。

また、前記部屋１の壁面２は、本実施の形態ではパネルで構成されているので、内部が中空の部分がある。そのような箇所には、釘、ビス等の止着材２１を中空部分に取り付けても強固な固定状態を確保できる機能を有するアンカー部材２１ａを、予め前記壁面２の所定の位置に設けておくようにする。

【００３９】

また、図３に示すように、前記部屋１の壁面２の下部に、予め幅木３を取り付けておく。そして、この幅木３の上端部に前記化粧壁下地１１の下端部が位置するようにして、前記化粧壁下地１１を形成していく。すなわち、図４に示すように、前記複数のレール部材１２（１３）のうちの異なる形状のレール部材１３を、このレール部材１３の幅木当接部１３ｂを前記幅木３の上端部に当接させるようにして設ける。

なお、図示はしないが、必ず前記幅木３の上端部に前記化粧壁下地１１の下端部が位置するので、壁内に止着材２１を取り付けるための芯材を予め内蔵させてもよい。

【００４０】

すなわち、前記幅木３の上端部を、前記化粧壁下地１１を壁面２に形成する際の基準位置として利用することができる。これによって、前記化粧壁下地１１の壁面２に対する取付位置の特定が容易となるので、施工性の向上を図ることができる。

また、このように前記幅木３によって取付位置の特定ができるので、例えば部屋１のリフォーム時に化粧壁１０を設ける際にも好適である。つまり、既存の幅木を取り外さずにそのまま使用することができるので、既存の幅木の取り外しに係る手間を省略することができる。

【００４１】

続いて、前記レール部材１３の差込部１２ｄを、前記下地板材１４の下端部の溝部１４ａに差し込むようにして、最下段の下地板材１４を前記レール部材１３の上方に設ける。また、前記下地板材１４は、前記壁面２の幅方向に沿って左右に複数隣接して配置していく。

さらに、最下段の下地板材１４の上端部の溝部１４ａに、前記レール部材１２の下側の差込部１２ｄを差し込むようにして、最下段の下地板材１４の上方にレール部材１２を設け、さらにその上に、次の下地板材１４を左右に複数隣接させながら設けていく。

【００４２】

なお、前記複数の下地板材１４は、図３および図４に示すように、止着材２１によって前記壁面２に固定している。これにより、前記止着材２１によって前記複数の下地板材１４を、前記壁面２に強固に固定することができる。

さらに、このように前記複数の下地板材１４を、前記化粧シート１７を貼り付ける前の

段階で、前記止着材２１によって固定するので、前記化粧シート１７によって、前記下地板材１４の表面に露出する止着材２１の頭部を容易かつ確実に隠すことができ、外観性に優れる。

【００４３】

しかも、このように前記複数の下地板材１４を、止着材２１によって前記壁面２に固定するので、止着材２１で前記複数の下地板材１４を固定しなかった場合とは異なり、例えば地震等で左右に隣接する下地板材１４間に隙間が生じてしまい、これに応じて前記化粧壁下地１１の表面に貼り付けられた化粧シート１７に亀裂が入ってしまうような事態を確実に防ぐことができる。

【００４４】

以上のような手順で作業を進めていき、前記化粧壁下地１１の最上段に位置する下地板材１４までを、前記止着材２１によって壁面２に固定することによって、前記化粧壁下地１１を壁面２に形成することができる。その後、前記化粧壁下地１１の左右側面には、前記見切材１６をそれぞれ取り付けておくようにする。

【００４５】

そして、この化粧壁下地１１は、部屋１の天井６の施工前に形成しておくようにし、天井６を施工する際は、この化粧壁下地１１の上端部よりも下方に位置するようにして前記天井材６ａを設置する。

これにより、例えば前記化粧壁下地１１の最上段に位置する下地板材１４の上端部を、天井６の高さに合うように切断したり等の手間を省略することができるので、施工性の向上を図ることができる。

【００４６】

なお、図１に示すように、前記化粧壁下地１１の最上段に位置する下地板材１４と、前記天井材６ａとの交点に、前記天井６の周囲を廻るようにして回り縁６ｂを設けるようにしてもよい。

【００４７】

続いて、以上のように形成された化粧壁下地１１の表面前面に前記化粧シート１７を貼り付けていく。その後、前記複数のレール部材１２（１３）に沿って化粧シート１７を切断するとともに、これら複数のレール部材１２（１３）の表面に貼り付けられた化粧シート１７のみを剥がす。

【００４８】

なお、前記複数のレール部材１２（１３）に沿って化粧シート１７を切断する際は、例えば図２に示すように、前記化粧シート１７の表面と、前記レール部材１２の表面が連続性を有するように、前記複数のレール部材１２の突片１２ｃに沿ってカッター等によって切断していく。前記レール部材１３も同様に、前記突片１３ｃに沿ってカッター等によって切断していく。

【００４９】

さらに、前記複数のレール部材１２（１３）の表面に貼り付けられた化粧シート１７を剥がす際は、化粧シート１７を貼り付けるための接着剤等が乾く前に剥がしてしまい、複数のレール部材１２（１３）の表面に付着した接着剤は確実に拭き取る。または、予め複数のレール部材１２（１３）の表面に接着剤の付着を防ぐ防護シール等を設けておいてもよい。

【００５０】

その後、前記複数のレール部材１２の被係合部１２ｂに、前記係合部２０ｄを係合させるようにして棚板１８を複数設ける。これら複数の棚板１８の取付位置は、図１に示すように任意であり、棚板１８だけに限られず、前記被係合部１２ｂに係合可能な部材を用いて、種々のものを化粧壁１０に設けるようにしてもよい。

【００５１】

本実施の形態によれば、前記部屋１の壁面２に形成した化粧壁下地１１の表面全面に、この化粧壁下地１１の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シート１７を貼り付

け、その後、前記複数のレール部材１２（１３）に沿って化粧シート１７を切断するとともに、これら複数のレール部材１２（１３）の表面に貼り付けられた化粧シート１７のみを剥がすことから、この化粧シート１７によって前記左右に隣接する下地板材１４どうしの継ぎ目を容易かつ確実に隠すことができるので、外観性に優れる。

そして、前記上下に隣り合うレール部材１２（１３）のそれぞれの間に、複数の下地板材１４を左右に隣接して配置することによって形成された化粧壁下地１１の表面全面に、前記化粧シート１７を貼り付けるので、前記左右に隣接配置した複数の下地板材１４に沿って長尺な化粧壁１０を形成することができる。したがって、部屋１の壁面２に対して化粧壁１０を広く形成することが可能となる。

【００５２】

また、本実施の形態の化粧壁１０は、前記複数の下地板材１４の枚数調整や長さ寸法の切断調整を行うことができるだけでなく、前記化粧壁下地１１の表面全面を被覆可能な大きさに形成された化粧シート１７を用いているので、どのような幅寸法の部屋１の壁面２であっても対応することが可能となっている。

【図面の簡単な説明】

【００５３】

【図１】本発明の実施の形態に係る化粧壁を備える部屋を示す斜視図である。

【図２】レール部材の近傍を示す拡大側断面図である。

【図３】化粧壁を示す側断面図である。

【図４】化粧壁下地の分解斜視図である。

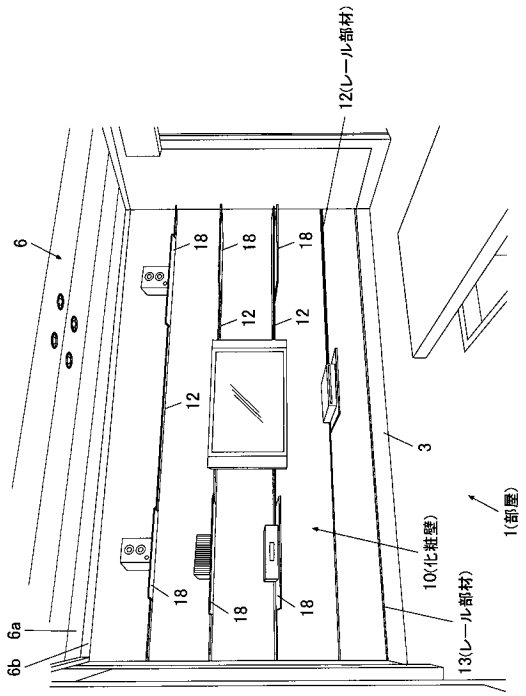
【図５】開口部近傍における化粧壁と開口枠の納まりを示す平断面図である。

【符号の説明】

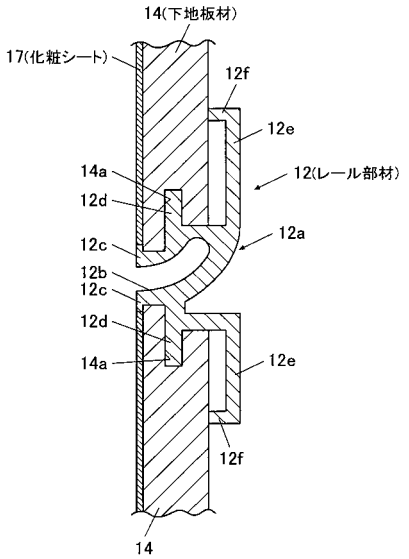
【００５４】

１　部屋
２　壁面
１０　化粧壁
１１　化粧壁下地
１２　レール部材
１３　レール部材
１４　下地板材
１７　化粧シート

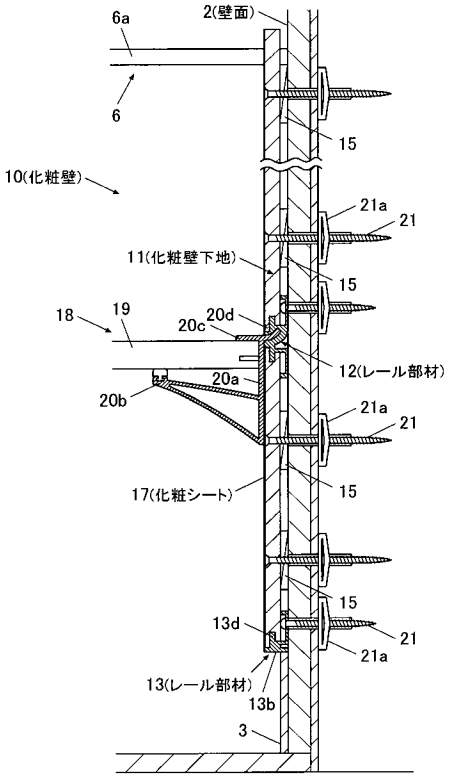
【図１】


12(レール部材)
6
18
12
3
1(部屋)
10(化粧壁)
13(レール部材)
6a
6b

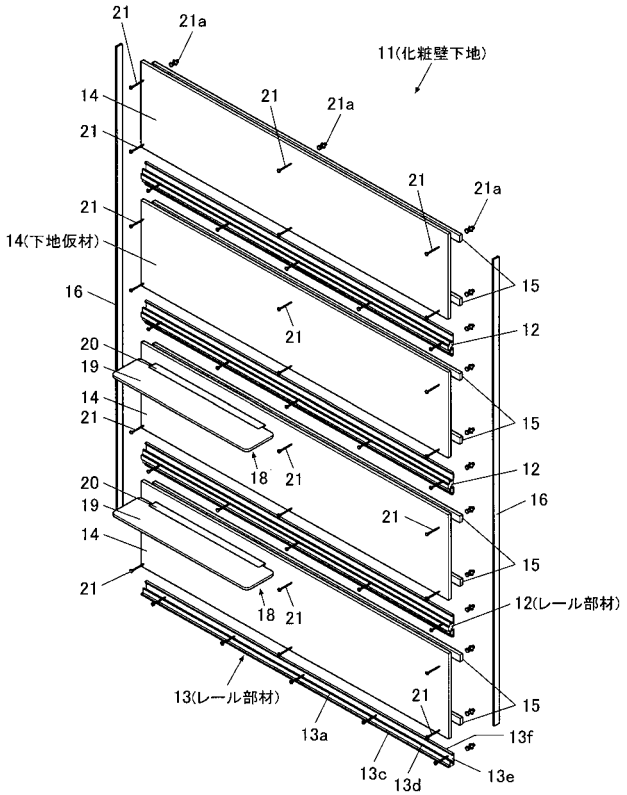
【図２】


14(下地板材)
17(化粧シート)
12f
12e
12(レール部材)
14a
12d
12a
12c
12b
14

【図３】


6a
2(壁面)
6
15
10(化粧壁)
21a
21
11(化粧壁下地)
18
19
20c
20d
12(レール部材)
20a
20b
17(化粧シート)
13d
13(レール部材)
13b
3

【図４】


21
21a
11(化粧壁下地)
14
14(下地仮材)
16
15
12
20
19
18
12(レール部材)
13(レール部材)
13a
13f
13c
13d
13e

【図５】

